

2026年世界人工知能大会(WAIC 2026)総括レポート: AIエージェントの物理世界実装と中国の独自エコシステム戦略、および日本企業への提言

Gemini 3.1 pro

1. イントロダクション: AIの「知能競争」から「産業競争」への歴史的転換点

2026年7月17日から20日にかけて、中国・上海にて「2026年世界人工知能大会(WAIC 2026)」ならびにAIグローバルガバナンスハイレベル会議」が開催された¹。2018年の初開催以来、WAICは中国における人工知能(AI)産業のロードマップを示す世界最大級のカンファレンスとして機能してきた。本大会は過去最大規模となる10万平方メートルの展示面積を誇り、世界中から技術者、政策担当者、投資家が集結した³。本大会の規模と影響力は、提供された定量データからも明らかである。以下の表は、WAIC 2026の主要な開催指標をまとめたものである。

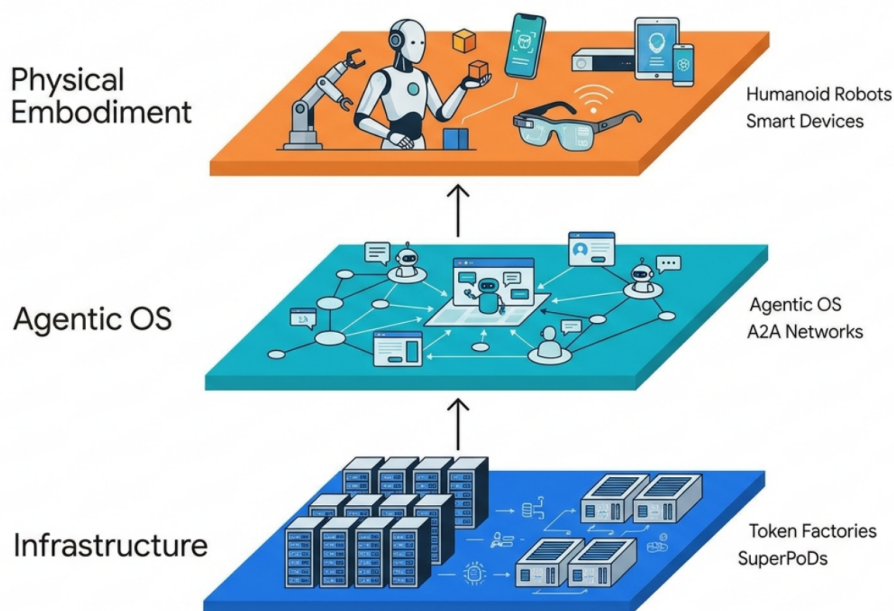
指標	詳細データ	意義・背景
開催期間・場所	2026年7月17日～20日、上海(世博センター、世博展覧館、張江、西岸など)	中国のテクノロジーハブである上海全域を巻き込んだ大規模な分散開催 ⁵ 。
展示規模	総面積10万平方メートル以上、出展企業1,100社以上、展示品3,000点以上	世界最大級のAI見本市としての地位を確立。ロボティクス企業200社以上、AI計算インフラ企業200社以上が参画 ³ 。
新規発表	300点以上の製品が世界初公開	グローバルな新製品発表のプラットフォームとして機能しており、技術開発のスピードの速さを示唆 ⁶ 。
フォーラム・参加者	140以上のテーマフォーラ	アカデミア、産業界、政府関

	ム、国内外から1,400人以上のゲストが登壇	係者が交差する高度な議論の場を提供 ³ 。
--	------------------------	----------------------------------

本大会における最も重要なハイライトは、中国の最高指導者である習近平国家主席が初めて直接会場を訪れ、開幕式の基調講演を行ったことである⁹。この事実は、中国が人工知能を単なる技術的キャッチアップの対象から、経済成長、技術的自立、そしてグローバル規範の主導権を握るための国家戦略の中核軸へと格上げしたことを国内外に強く誇示するものであった¹⁰。

包括的な分析の結果、WAIC 2026を通じて、世界のAI産業における競争の軸が根本的にシフトしていることが判明した。従来の「どれだけパラメータ数の多い、知能の高いモデルを作れるか」というソフトウェアモデル単体の性能競争は終焉を迎え、AIを現実世界でどう動かし、どう社会システムに組み込み、どう他のシステムと協調させるかという「エンドツーエンドの物理実装とシステム競争」へと完全に移行している⁴。

AIパラダイムの三層構造への進化



WAIC 2026で提示されたAI産業の新たな構造。単一の基盤モデル競争は終焉し、計算カインフラ（SuperPoD）、自律型AIエージェント（OS）、そして物理空間への実装（具象AI）という三層のシステム間連携が競争の新たな主戦場となっている。

2. 大会の中核的技術トレンド: パラダイムシフトの三層構造

大会の展示および約200に及ぶテーマフォーラムでの議論は、AI産業が直面する3つの根本的なアーキテクチャの変革を浮き彫りにした。それは「計算力のシステム化（トークンファクトリー）」「ソフト

ウェアの自律化(AIエージェント)」「ハードウェアの具象化(エンボディドAI)」である⁴。
本大会では、技術性、市場性、複製可能性、社会的価値などの観点から、特に優れた10の革新的アプリケーションが「鎮館之宝(Treasures of the Exhibition: 展示最高栄誉)」として選出された¹⁵。以下のセクションでは、これらの受賞製品を交えながら、三層のパラダイムシフトを詳細に分析する。

製品名	開発企業	概要および革新性
曙光8000(登峰)	中科曙光(Sugon)	中国初となる完全国産の10万カード級AIスーパークラスター。高精度の科学計算から低精度のAI推論までを単一システムで処理する「超智融合」を実現 ¹⁵ 。
ロボット智慧薬局	Ant Group(蚂蚁集团)	単一の具象基盤モデル「LingBot-VLA」を用いて、異機種のロボット群を協調制御し、受注から梱包までを90秒で完遂する自律システム ¹⁵ 。
遠征(Yuanzheng) A3 Ultra	AgiBot(智元機器人)	身長174cmのフルサイズ商用ヒューマノイドロボット。51の自由度を持ち、自社開発のVLA大模型により複雑な作業を自律実行可能 ¹⁵ 。
Zhenwu M890 × Panjiu AL128	Alibaba Cloud / T-Head	独自のALink SystemによりPb/s級の帯域幅を実現した超高密度サーバー(1キャビネット128カード)。従来の推論性能を50%向上 ¹⁵ 。
STEPX Neo	階躍端末(StepX)	大規模モデルをOSレベルでネイティブに統合したAIエージェントスマートフォン ¹⁵ 。
百度搭子(Baidu Dazi)	Baidu(百度)	自然言語の指示からタスクを自律的に分解し、ファイル処理やデータ分析をクラウドとローカルサンドボックスを使い分けて実行する汎用エージェント ¹⁵ 。

訊飛AI眼鏡 (iFlytek AI Glasses)	iFlytek (科大訊飛)	重量40gの軽量スマートグラス。多言語翻訳や読唇術を活用した多感覚ノイズキャンセリング機能を搭載し、視覚・聴覚を介したAIアシスタントとして機能 ¹⁵ 。
OEXスーパーノード	ZTE (中興通訊)	オープンアーキテクチャを採用し、GPU相互接続のボトルネックを打破した次世代AIスーパーノード ¹⁵ 。

2.1. 第一層：計算インフラの再定義と「トークンファクトリー」への進化

過去数年間のAIチップ開発競争は、単一の半導体が発揮する理論上のピーク演算性能の比較に終始していた。しかしWAIC 2026では、この「単体性能」の競争が終了し、システム全体の生産効率とスループットを競う「トークンファクトリー」の概念へと移行したことが明確に示された⁴。

このパラダイムシフトの背景には、中国におけるAIのトークン呼び出し回数が2024年初頭の1,000億回から2025年末には100兆回へと爆発的に増加した事実がある¹⁴。巨大モデルの学習や長文コンテキストの推論において、GPU単体の性能が高くとも、データ転送待ちやタスク切り替えで生じるロスが致命的なボトルネックとなる。そのため、チップ間の通信遅延削減、メモリ帯域幅、ネットワークアーキテクチャ、冷却システムなどを包括したフルスタックでの最適化が不可欠となっている¹⁴。

ファーウェイ (華為技術) は、独自のAIアクセラレータ「Ascend 950 (昇騰950)」を1,024基高速相互接続した物理マシン「Ascend 950 SuperPoD」を初公開した²¹。単一キャビネット (64カード) を基本ユニットとし、256TBのグローバル統合メモリアドレス空間を提供する。TB級のNPUインターコネクタ帯域幅とわずか3マイクロ秒のRTT (ラウンドトリップタイム) 遅延を実現し、FP8精度で1 EFLOPS、FP4で2 EFLOPSの演算能力を誇る²¹。また、既存の空冷データセンターへ直接導入可能な液冷代替技術「VCE相変化冷却技術」を採用した「Atlas 850E」も発表され、インフラ改修コストの削減を提示した²¹。

「鎮館之宝」に選出された中科曙光 (Sugon) の「曙光8000 (登峰)」は、Hygon Information (海光信息) のCPUおよびDCUを採用した完全国産の10万カード級AIスーパークラスターである¹⁷。高精度の科学計算 (FP64) から低精度のAI推論 (INT8) までを一つのシステムで処理する「超智融合」アーキテクチャを採用しており、完全な国産代替 (エンドツーエンドの自律制御) を証明する象徴的なインフラとなった¹⁵。

これらの発表は、米国の先端半導体輸出規制によりNVIDIA製最新GPUの確保が制限される中で、中国企業が「チップ単体のハンデを、システム全体の統合アーキテクチャ (ネットワークとソフトウェアスタックの最適化) によって補完し、凌駕する」という明確な生存・競争戦略にシフトしたことを意味している¹⁰。

2.2. 第二層：自律型AIエージェントの台頭とソフトウェアの変革

WAIC 2026のソフトウェア領域における最大のテーマは、人間がプロンプトを入力して回答を得る対話型の「チャットボット」から、目標を与えれば自律的に計画・推論・ツール実行を行う「AIエージェン

ト」への進化であった¹²。

StepFun(階躍星辰)の創業者であるYin Qi(印奇)氏は基調講演「AIエージェントが物理世界に入る
とき」の中で、2026年にAIモデルの能力が臨界点を突破したと宣言した²⁶。自然言語処理の能力に
代わり、プログラミング能力がAIの進化を測る新たなベンチマークとなっており、AIは「世界を理解す
る」段階から「世界を変革する」段階へと加速していると指摘した²⁷。

同氏は、エージェント時代における3つの構造的変革として以下を提示した¹³。まず、「Agentic OS
(エージェント指向OS)」の概念である。モデルの知能がどれほど高くても、それを企業内のデー
タベースやIoTデバイスと接続しなければ価値は生まれない。モデルとデータ、ツールを接続する専用
OSが、今後の技術競争の主戦場となる。次に、「Human-Machine Symbiosis(人機共生)」という端
末のあり方の変化である。スマートフォン、自動車、ロボットといった物理的なデバイスは「人間が操
作するもの」から「エージェントの物理的な身体」へと変わり、エージェントがデバイス間をシームレス
に移動するアーキテクチャが標準となる。最後に、「A2A (Agent-to-Agent) Network」の構築であ
る。エージェント同士が自律的に連携し、アイデンティティと信用を持ち、タスクの受発注や取引を自
動で行う並行ネットワークが、次世代の経済インフラとして機能することになる。

展示会場では、Baiduの汎用エージェント「百度搭子 (Baidu Dazi)」や、大希望言語モデルをOSレ
ベルでネイティブ統合したスマートフォン「STEPX Neo」、そしてiFlytekの「讯飛AI眼鏡」など、このエ
ージェント化を体現する製品が多数発表され、AIが単なるアプリケーションの枠を超えてユーザーの生
活や業務のオペレーティングシステムそのものになりつつある現状が示された¹⁵。

2.3. 第三層：物理世界への実装(エンボディドAI)の急加速

WAIC 2026では、AIがデジタルなチャットウィンドウから飛び出し、物理世界で知覚と行動を行う「エ
ンボディドAI(Embodied AI / 具象AI)」へのシフトが顕著であった¹²。展示会場には200社以上のロボ
ティクス企業が集結し、ロボットのデモンストレーションは、バク宙やダンスといった過去の「見世物
(スタント)」から、工場での配線、部品の組み立て、店舗でのコーヒー提供、物流倉庫でのピッキング
といった「実用的な労働」へと完全に焦点を移していた⁴。

企業名	主要製品・ソリューション	実装の特徴と技術的ブレークスルー
AgiBot(智元機器人)	遠征(Yuanzheng) A3 Ultra	360度の視覚とLiDAR融合認識システムを搭載。大会期間中、RaaS(Robotics-as-a-Service)プラットフォーム「Qingtianzu」を通じて60台以上のロボットを会場各所に配置し、道案内や飲料提供を無人で行う大規模ストレステストを完遂 ¹⁹ 。
Pudu Robotics	PUDU D7	「一つの脳、複数の身体(One Brain, Multiple

		Embodiments)」アーキテクチャに基づき、汎用モデル(PuduFM)を配送・清掃・ヒューマノイドロボット間で共有。最大14kgのペイロードに対応する産業用半ヒューマノイド ³⁰ 。
Ant Group(螞蟻集団)	ロボット智慧薬局	薬局の商業シナリオを模倣し、単腕・双腕・車輪型など異なるメーカーの異機種ロボット3台を、単一の自社開発基盤モデル「LingBot-VLA」で協調制御。受注から梱包までを90秒で完了 ¹⁵ 。
PsiBot × YOFC	光モジュール製造ソリューション	ハイエンド光モジュールの挿入・検査工程に具象AIを導入。サブミリ単位の精度が要求されるタスクを自律的に計画・実行し、ピンの損傷を防ぐことで製造ロスを約10%削減 ³¹ 。

これらの事例が示すのは、LLM(大規模言語モデル)の進化を支えた「スケーリング則」が、物理世界へと適用される「Physical Scaling Law(物理的スケーリング則)」の時代が到来したということである⁴。現実空間の挙動を仮想空間に再現する「世界モデル(World Models)」を用いてロボットを仮想訓練し、そのデータを現実のロボットにフィードバックするというサイクルをいかに高速に回せるかが、今後のロボティクス産業における至上命題となっている⁴。Galaxy General Robotics(銀河通用機器人)の創業者Wang He氏は、2028年までに具象AI技術が飛躍的な進歩を遂げ、未学習のタスクであっても70%~80%の成功率で自律的に実行できるようになると予測している³²。

3. Kimi K3がもたらした衝撃と「中国製AI」の再評価

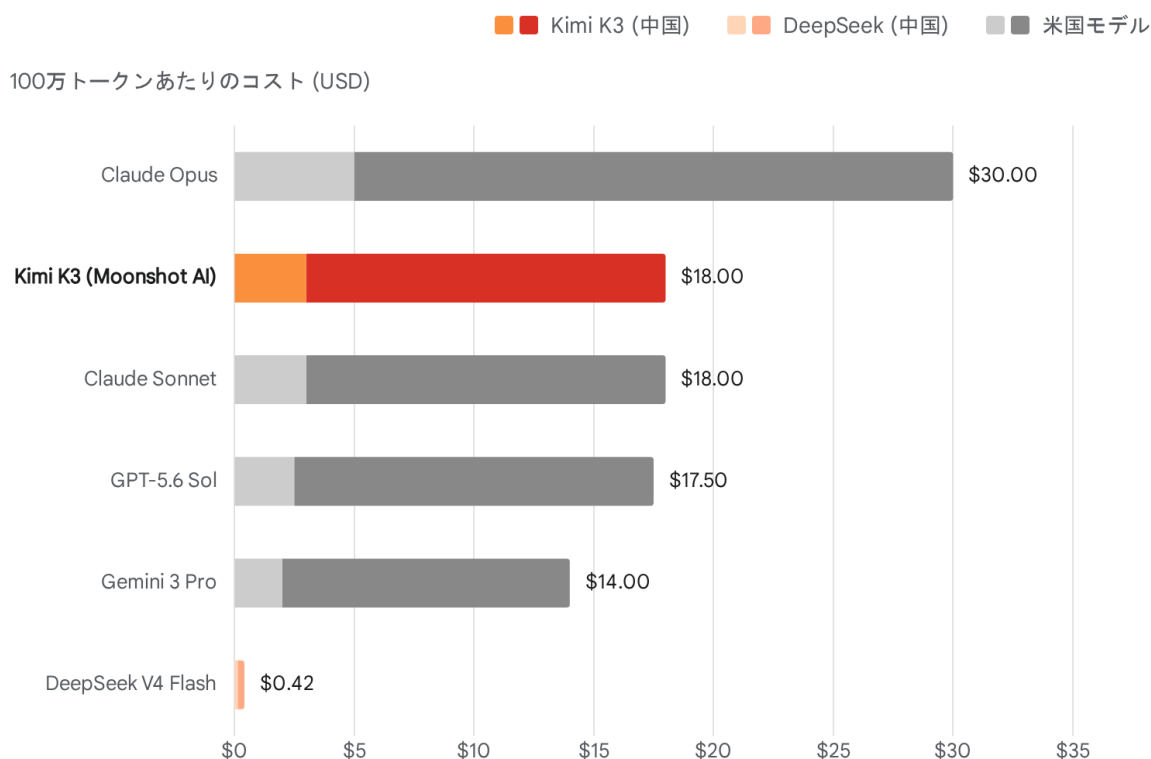
モデル性能の観点で本大会の裏の主役となったのが、中国の有カスタートアップMoonshot AIが大会前日の7月16日に発表した「Kimi K3」である³。総パラメータ数2.8兆(2.8T)を誇る巨大な「Mixture of Experts(MoE)」アーキテクチャを採用しながら、オープンウェイト(モデルの重みデータを商用利用可能な改変MITライセンスで無料公開)を採用した世界最大級のオープンフロンティアモデルである³⁴。

技術的仕様として、Kimi K3は896の専門家ネットワークのうち、推論ごとにわずか16の専門家のみをアクティベートすることで計算効率を極限まで高めている³⁴。さらに独自の「Kimi Delta Attention(KDA)」および「Attention Residuals」技術により、全体のスケーリング効率を前モデルの約2.5倍に向上させ、100万トークン(日本語の文庫本約7~10冊分)という極めて長いコンテキストを最大6.3倍の

速度で処理する能力を持つ³⁴。

その実務タスクにおける能力は、米国のトップモデルを脅かす水準に到達している。Webフロントエンド開発のベンチマーク「Frontend Code Arena」において、Kimi K3は1,679点を獲得し、Anthropic社の「Claude Fable 5」(1,631点)を抑えて世界1位にランクインした³⁴。また、宇宙物理学の複雑な研究ワークフローにおいて、20本以上の論文の相互検証、数式の評価、3,000行以上のPythonコード生成を約2時間の自律動作で完遂するという、人間のベテラン研究者が数週間要するタスク量処理する能力も実証された³⁴。学術的推論能力を測るGPQA-Diamondでも93.5という極めて高いスコアを記録している³⁴。

主要フロンティアAIモデルのAPIコスト比較



各モデルの100万トークンあたりの入力および出力コスト (USD)。Kimi K3は、同国のDeepSeekと比較して約20倍以上の価格設定でありながら、AnthropicのClaude Opusを下回る絶妙なプライシング戦略を採っている。なおKimi K3はキャッシュヒット時に大幅な割引 (入力\$0.30) が適用される。

Data sources: [CHOSUNBIZ](#), [Pandaily](#), [CloudNative BLOGs](#), [note \(just_mimosa3473\) / eesel.ai](#)

Kimi K3の登場は、世界の市場における「中国製AI＝安かろう悪かろう」というナラティブを崩壊させた。これまでの中国製モデル (DeepSeekなど) は、圧倒的な低価格を武器に市場シェアを拡大する

戦略を採っていた³⁷。しかしKimi K3は、API料金を入力3ドル、出力15ドル（100万トークンあたり）に設定しており、これは米国Anthropic社のClaude Sonnetと同等であり、DeepSeekの約20倍以上の価格である³⁴。ただし、同一のプロンプトや参照ドキュメントが繰り返し送信されるワークロードにおいては、キャッシュの利用により入力コストが90%割引の0.30ドルまで下がる構造となっている³⁴。

一方で、独立系アナリストや研究機関からは、中国製巨大モデル特有のリスクも指摘されている。Kimi K3は、事実の正確性を測るテスト（AA-Omniscience）において、ハルシネーション（幻覚）率が前モデルの39%から51%へと大幅に悪化していることが報告されている³⁴。「知らないことを知ったふりで答える」傾向が強まっており、人間の監視（ヒューマン・イン・ザ・ループ）なしでの完全自動化には依然としてリスクが伴う³⁴。

さらに、Kimi K3を開発するMoonshot AIは、以前にAnthropic社のClaudeモデルから数百万回の出力を不当に抽出し、自社モデルの訓練データに利用する「蒸留攻撃」を行った疑いがもたれている³⁶。また、著作権保護やIPフィルタリングに対するガードレール（安全装置）が西側諸国のモデルに比べて意図的に緩く設計されている点も指摘されている³⁵。これはユーザーにとって一時的に利便性が高い（手錠のないAI）反面、出力結果のコンプライアンス責任がすべてユーザー企業側に転嫁されることを意味する³⁵。

4. グローバル・ガバナンスと地政学的覇権争い

WAIC 2026は、単なる技術見本市にとどまらず、AI技術の発展とガバナンスにおける米中の覇権争いが新たなフェーズに入ったことを世界に強く印象付けた。

4.1. 米国の「Pax Silica」と国連のガバナンス構想

現在の世界のAI覇権争いは、米国が主導する半導体サプライチェーンの囲い込み戦略（通称：Pax Silica / パックス・シリカ）によって特徴づけられている³⁸。米国防総省は「1260Hリスト」を通じて、軍民融合に寄与するとされる中国のテクノロジー企業（Alibaba、Baidu、Tencentなど）をブラックリスト化し、国防総省との直接契約や政府調達を禁止している³⁸。しかし、現実にはAIモデルがクラウドAPIやシンガポール法人のような仲介業者を通じて商業的に提供されているため、完全な封じ込めは困難な状況にある。実際にOpenAIやGoogleは、米国の法律に違反しない形で、シンガポールを拠点とするこれらの中国系企業の関連会社にAIモデルへのアクセスを提供していることが報じられており、規制の実効性に疑問が投げかけられている³⁸。

同時に、スイスのジュネーブで開かれた国連主導のAIガバナンス会合（WAICと同月の2026年7月開催）では、アントニオ・グテーレス国連事務総長が4つの優先事項を提示した。具体的には、「子供の保護などの安全性（Safety）」、「自律型致死兵器システム（LAWS）の禁止というレッドライン（Red Lines）」、「グローバル・サウスを含めた能力構築（Capacity）」、そして「AIインフラがもたらす環境負荷に対する透明性（Transparency）」である³⁸。

4.2. WAICOの設立：中国による「AI公共財」外交

こうした米国の包囲網と国連主導の枠組みに対し、中国はWAICの場を利用して独自の国際連合を立ち上げた。開幕前日の7月16日、上海にて王毅外相と29カ国の代表が「世界人工知能協力機構（WAICO：World Artificial Intelligence Cooperation Organization）」の設立協定に署名した³⁸。

WAICOの本部は上海に置かれ、独立した政府間国際組織として機能する。

特筆すべきは、加盟国の構成である。原加盟国には、インドネシア、ブラジル、マレーシア、南アフリカ、ロシア、パキスタンなどグローバルサウスの国々が名を連ねているが、米国、日本、欧州などの

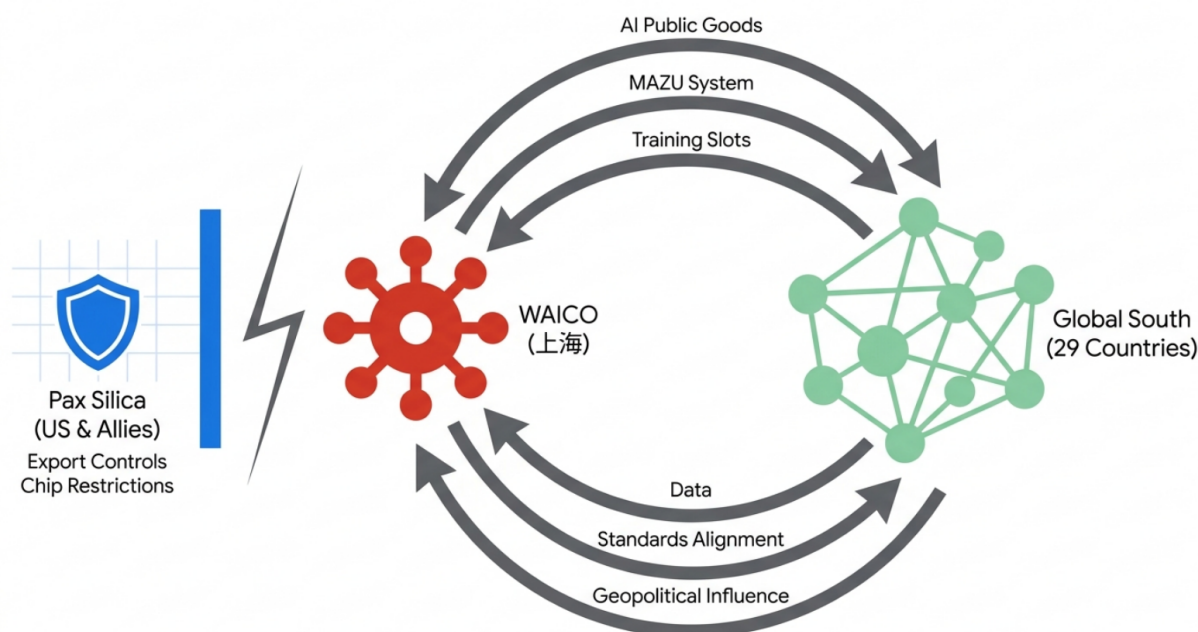
主要な西側民主主義国は一切参加していない³⁸。

習近平国家主席は基調講演において、「開放と協力」「安全でコントロール可能なAI」「包摂性」「連帯と国連の役割」という4つの原則を提示し、AIを「世界的な公共財(Global Public Goods)」として提供すると宣言した¹¹。具体的には、以下の3つの国際的な公約を発表した。

1. 今後5年間で、途上国向けに5,000人分のAI専門研修・セミナー枠を提供する¹¹。
2. 自然災害をAIで予測する気象早期警戒システム「MAZU(媽祖)」を、世界30カ国に展開する¹¹。
3. ASEAN、アフリカ連合、BRICSなどを対象に、国際AI応用協力センターを設立する¹¹。

習主席は講演で「AI分野で国家安全保障の概念を過度に拡大し、一国の安全を他国のそれに優先させることに反対する」と述べ、米国の過度な輸出規制(Pax Silica)を明確に批判した³⁸。中国の戦略は、半導体やモデル性能という「技術そのもの」を主戦場とするだけでなく、技術を囲い込む米国とは対照的に、AI技術やインフラを「公共財として気前よく配る」ことで、次世代のグローバルスタンダードと影響力をグローバルサウスで確立しようとする高度なテクノロジー外交である³⁸。

中国の「AI公共財」外交とWAICOによる独自エコシステムの形成



WAICOをプラットフォームとした中国の戦略。米国主導の「Pax Silica（半導体供給網の囲い込み）」から排除されたグローバルサウスに対し、「MAZU（気象予測AI）」や「人材育成（5000人の研修枠）」を無償提供することで依存度を高め、同時に膨大な現場データとルール形成の主導権を還流させる仕組みを構築している。

以下の表は、現在の世界のAIガバナンスを巡る主要な枠組みを比較したものである。

枠組み	主導者・主要参加国	戦略の焦点とアプローチ
Pax Silica	米国主導（日本等の同盟国含む）	国家安全保障を名目とした先端半導体（GPU）および製造装置の輸出規制。軍事転用リスクのある企業へのハードウェア供給網の遮断 ³⁸ 。
国連AIガバナンス	国連（193加盟国）	自律型致死兵器（LAWS）の禁止、児童保護の誓約、データセンターの環境負荷透明性など、全人類的リスクに対する普遍的な倫理基準の構築 ³⁸ 。
WAICO	中国主導（グローバルサウス29カ国）	途上国へのAI教育、インフラ（気象システム等）の無償提供を通じた包摂性の追求。技術の封じ込めに対する非同盟・独自の経済圏の構築 ³⁸ 。

5. 日本企業への提言（戦略的対応策）

WAIC 2026が示した「モデルからシステムへ」「チャットからエージェントへ」「デジタルからフィジカルへ」という潮流、そして米国と中国によるAIルール of 分断化を踏まえ、日本企業は以下の戦略的対応を急ぐべきである。

5.1. 「使うAI」から「組み込むAI」へのパラダイムシフトの受容

多くの日本企業は現在も「どの生成AI（チャットボット）を業務に導入して効率化を図るか」という議論にとどまっている¹³。しかし、本大会で示されたように、競争の軸はすでに「自社の業務システムにいかんAIエージェントを深く組み込み、自律化させるか」に移行している¹³。

日本企業は、従業員にプロンプト入力を促す段階から脱却し、社内のデータベース、ERP、IoTデバイスとAIモデルをAPI経由で接続する「Agentic OS」の構築、あるいは導入を優先すべきである²⁷。今後は「AIエージェントを前提に、自社の業務プロセスをどうゼロから再設計するか」、さらには「他社のAIエージェントと自社のAIエージェントが自動で取引・協調する（A2Aネットワーク）際に、どのような権限委譲とセキュリティ監査の仕組みが必要か」という一段高い次元のアーキテクチャ設計が求められる¹³。

5.2. フィジカルAI領域における日系製造業のポテンシャルの再定義と統合

AgiBotやPudu Roboticsが証明したように、エンボディッドAI（具象AI）の戦場は「ショーケース」から「実際の工場・店舗・物流網での労働」へと移っている⁴。現実世界は不確実性に満ちており、物理的なエラーは器物の損壊や人命に関わるため、ソフトウェアの知能だけでなく、ハードウェアの信頼性が極めて重要になる⁴。この領域において、ロボティクスのハードウェア制御、精密機械加工、エッジコン

ピューティング、そして長年蓄積された製造現場(Gemba)のデータを持つ日本の製造業には極めて高い優位性が残されている。

日本企業は、自社のハードウェアの強みに固執するだけでなく、米中ソフトウェア企業が先行する「世界モデル(World Models)」や「VLA大模型」と、日本のハードウェアを接続するオープンなプラットフォーム戦略を推進すべきである。中国企業が具象AIを急ピッチで実用化している現状を鑑み、日本企業もAIを搭載したロボットの「耐久性」「安全性」「低故障率」といった物理的な信頼性を武器に、グローバルなエコシステムにおける不可欠なコンポーネントとしての地位を確立する必要がある。

5.3. オープンモデル活用における地政学・IPリスクの厳格な評価

Kimi K3に代表されるように、商用利用可能な「オープンウェイト」の中国製超巨大モデルが、米国のトップモデルに迫る性能を低コストで提供し始めている³⁴。機密データを取り扱う日本企業にとって、外部のクラウドAPIを利用せずに自社内のオンプレミス環境で強力なAIを稼働させることができるオープンウェイトモデルの存在は魅力的である³⁵。

しかし、中国製AIの導入には慎重なリスク評価が不可欠である。導入を検討する際は、以下の観点を法務・情報セキュリティ部門と厳格に合意形成しなければならない⁴²。第一に、モデル自体に著作権保護や有害出力のフィルタリング(ガードレール)が十分に実装されていない場合、ユーザー企業側でAIの出力に対する強力なIPクリアランス体制を内製化し、運用する義務が生じる³⁵。第二に、性能が向上する一方で事実誤認のリスクが高まっているモデル(Kimi K3の51%の幻覚率など)に対しては、AIエージェントに最終決定権を持たせず、人間の専門家による検証プロセスを必ず組み込むことが求められる³⁴。第三に、自社インフラでのローカル運用を前提とし、データが中国本土または第三国のサーバーに越境移転されないアーキテクチャを設計することが、経済安全保障上の絶対条件となる⁴²。

5.4. 供給網(Pax Silica)への適合と、多極化する標準化への対応

日本はすでに米国の半導体供給網規制(Pax Silica)の枠組みの中にあり、主要な同盟国として西側のAI技術エコシステムに依存している³⁸。しかし、WAICOの設立が示すように、グローバルサウスを中心とする29カ国以上が、独自のAIインフラ(気象システム、教育プログラム等)と独自のガバナンスルールのもとで巨大な経済圏を形成しつつある³⁸。

グローバルに事業を展開する日本企業、特に商社、インフラ輸出企業、自動車メーカー等は、米国基準のコンプライアンスを遵守しつつも、WAICO加盟国において形成される「新たなAIの事実上の標準(デファクト・スタンダード)」や規制に対応できる柔軟な製品設計(ローカライゼーション)が求められる。モデルだけが優秀でも、AI同士が協調できなければ社会基盤にはならない¹³。ルールを握ったプレイヤーが長期的な影響力を持つ時代において、日本企業は国内での「どの生成AIを使うか」という議論を早急に切り上げ、国際的なAIエージェントの相互運用性、認証、セキュリティの標準化ルールメイキング(国連主導の枠組みなど)に政府と協調して積極的かつ戦略的に関与していくべきである¹³。

6. 結論

2026年のWAICは、人工知能のパラダイムが「テキスト生成の魔法」から「物理空間での自律的な生産活動」へとシフトした歴史的な分水嶺として記憶されるであろう。ファーウェイの「Ascend 950」や中科曙光の「曙光8000」が示す計算力インフラの自律化、そして「Kimi K3」や自律稼働する具象ロボット群が証明したように、中国は西側諸国の半導体規制を迂回し、システム全体の最適化と圧倒

的な社会実装のスピードによって米国の技術覇権を猛烈に追撃している。

同時に、WAICOの設立は、世界が単一の技術・倫理基準で統一されるのではなく、地政学的な断層線に沿って複数のAIエコシステムへと分極化していく未来を決定づけた。

日本企業は、AIを単なる業務効率化ツールとして矮小化する罠から抜け出す必要がある。次世代の競争優位性は、どれほど早く自社のビジネスモデルを「AIエージェントと人間が協調するシステム」へと再構築できるか、そして、日本が培ってきた物理的な信頼性(モノづくり)を、新たな「エンボディドAI」の潮流にいかに統合できるかにかかっている。コストとリスクを冷静に分析し、多極化する国際ルールに適応しながら、新しいテクノロジーの波を自社のコア競争力へと昇華させる戦略的決断が今、求められている。

引用文献

1. World Artificial Intelligence Conference (WAIC) 2026 2026世界人工智能大会,
<https://aiii.global/waic-2026/>
2. 2026 World AI Conference,
<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAIC2026/index.html>
3. Morning Briefing by Xiao K | WAIC 2026 Opens Today; Moonshot AI Launches Kimi K3,
<https://news.futunn.com/en/ja/post/76160513/morning-briefing-by-xiao-k-waic-2026-opens-today-moonshot>
4. https://note.com/clever_dill727/n/nb8492592b225
5. WAIC 2026 Shanghai | World Artificial Intelligence Conference - China Business Gateway,
<https://www.chinabizgateway.com/china-trade-fairs-2026/waic-2026-shanghai>
6. 2026世界人工知能大会 - 上海国際サービス,
<https://japanese.shanghai.gov.cn/ja-2026WAIC/index.html>
7. 2026世界人工知能大会、上海で7月開催 展示品は3000点以上に | Science Portal China, https://spap.jst.go.jp/china/news/260604/topic_3_01.html
8. 世界人工知能大会2026が7月に上海で開催 300種以上のAI製品が世界初公開 - AFPBB News, <https://www.afpbb.com/articles/-/3640223>
9. 一目でわかる！2026年世界AI大会の4つの注目点 - 人民日報,
<https://j.people.com.cn/n3/2026/0715/c94476-20478141.html>
10. 習近平主席、WAICに初参加へー中国がAIエコシステムの主導権を宣言 - BigGo ファイナンス,
<https://finance.biggo.jp/news/30f8b961-af87-409b-a3b9-4189082fce9d>
11. 習主席が2026年世界AI大会・AIグローバルガバナンスハイレベル会合の開幕式に出席し基調演説, <http://j.people.com.cn/n3/2026/0717/c94474-20479038.html>
12. Beyond bigger models: What WAIC 2026 reveals about AI's next chapter - CGTN,
<https://news.cgtn.com/news/2026-07-17/Beyond-bigger-models-What-WAIC-2026-reveals-about-AI-s-next-chapter-1QQOdVTqsg/p.html>
13. WAIC 2026レポート一何が語られ、何を得たか | C-JLab - note,
https://note.com/clever_dill727/n/n436143aab2a4
14. <https://finance.biggo.com/news/65e57396-9d0f-4d08-b071-8f3545f40136>
15. 鎮館之宝 | WAIC 2026鎮館之宝正式公布！十大获奖展品等你一探究竟- 华人头条,
<https://www.52hrtt.com/gb/n/w/info/G1783663628532>

16. Ant Brain Full-Stack 2.0 Makes Its Debut at WAIC, Demonstrating Smart Pharmacy with a Single Brain for Multiple Machines - AI NEWS,
<https://news.aibase.com/news/29639>
17. 从WAIC“镇馆之宝”，看国产算力“全精度十万卡时代” - 凤凰网科技,
<https://tech.ifeng.com/c/8upkXtedgrb>
18. Dawning Information Industry (603019) News Flow - 富途牛牛,
<https://www.futunn.com/en/stock/603019-SH/news?yruRpc=aZey9wP>
19. WAIC 2026 | AgiBot to Debut Multiple New Products - Gasgoo,
<https://autonews.gasgoo.com/articles/news/waic-2026-agibot-to-debut-multiple-new-products-2078355073401847808>
20. WAIC 2025 Robots Rapid Deployment: Explosive Growth in Segmented Tracks, VLA & World Models Compete as Core AI Brain - 36氪,
<https://eu.36kr.com/en/p/3901340695872647>
21. WAIC Spotlight: China's AI Chipmakers Shift from Flexing Specs to Building Full-Stack Systems, with SuperPods and Open-Source Software Stacks Taking Center Stage - BigGo Finance,
<https://finance.biggo.com/news/d1a26539-30bc-414f-ae61-7ee75824403a>
22. WAIC 2026十大镇馆之宝公布：国产十万卡AI超集群、智能体手机入选,
https://finance.sina.cn/stock/jdts/2026-07-16/detail-inihyie7718246.d.html?vt=4&cid=76993&node_id=76993
23. WAIC 2026镇馆之宝公布！对话式蛋白质设计智能体、智元机器人等入选 - 腾讯新闻,
<https://news.qq.com/rain/a/20260716A086KQ00>
24. 中国初の国産10万基AIスーパークラスター「曙光8000」が世界初公開、WAIC 2026「鎮館之宝」に選出 - BigGo ファイナンス,
<https://finance.biggo.jp/news/c2c3ea4d-92f7-45d8-af82-2feb210ea00>
25. Huawei Ascend introduces Atlas 850E air-cooled supernode at WAIC26,
<https://www.huaweicentral.com/huawei-introduces-atlas-850e-air-cooled-super-node/>
26. 【WAIC 2026】イン・チー氏が基調講演、AIエージェントが物理世界を再構築、「モデル能力は臨界点を突破」 - BigGo ファイナンス,
<https://finance.biggo.jp/news/35f634a9-5ba8-4e7d-80e4-bd4b848fb182>
27. <https://finance.biggo.com/news/35f634a9-5ba8-4e7d-80e4-bd4b848fb182>
28. WAIC 2026が示すAI産業の三大潮流：チップ競争からシステムレベルの生産性へ,
<https://finance.biggo.jp/news/65e57396-9d0f-4d08-b071-8f3545f40136>
29. AGIBOT Unveils Four New Products at WAIC 2026, Showcasing Embodied AI in Real-World Operations, <https://www.agibot.com/article/231/detail/85.html>
30. Pudu Robotics Highlights Its "One Brain, Multiple Embodiments" Physical Agent at WAIC 2026,
<https://www.pudurobotics.com/news/waic-2026-pudu-d7-industrial-semi-human-oid-robot-launch>
31. WAIC 2026 | Embodied AI Robots, Enter High-End Optical Module Manufacturing for the First Time | Gasgoo,
<https://autonews.gasgoo.com/articles/news/waic-2026-embodied-ai-robots-enter-high-end-optical-module-manufacturing-for-the-first-time-2078345564298125313>

32. Wang He, Founder of Galaxy General-Purpose Robot: The ChatGPT Moment of Embodied Intelligence Will Arrive by 2028! - AI NEWS,
<https://news.aibase.com/news/29692>
33. Moonshot unveils 2.8T-parameter Kimi K3, challenges top US AI models - CHOSUNBIZ,
<https://biz.chosun.com/en/en-it/2026/07/19/BAC54TFMHBEbXLJJ62LWVKMA74/>
34. 【2026年最新】Kimi K3とは？ 2.8兆パラメータ「オープン最強AI」を会社員目線で解説 - note, https://note.com/just_mimosa3473/n/nc9b4d8ef14c7
35. Fabel 5やGPT5.6のようなAIの賢さより、権利無視のKimi K3という中国AIの脅威,
<https://blog.cloudnative.co.jp/articles/kimi-k3-guardrail-asymmetry/>
36. A Chinese AI Accused of Plagiarism Quietly Became the Heart of a US Coding Tool, <https://xenospectrum.com/en/kimi-k3-china-ai-dependency/>
37. Moonshot AI Delivers the Third Shockwave: How Kimi K3 Changed the Narrative From Cheap Chinese Models to Premium AI Capability - Pandaily,
<https://pandaily.com/moonshot-ai-third-shockwave-waic-2026-jul2026>
38. WAICO発足、習近平氏がWAIC 2026で初講演 | 中国主導のAI連合29カ国の狙いとは, <https://innovatopia.jp/tech-social/tech-social-news/113624/>
39. 中国主導のAIガバナンス組織「WAICO」が発足 世界のAI規制が欧米主導と二極化 | 財經新聞, <https://www.zaikai.co.jp/article/20260718/861847.html>
40. World Artificial Intelligence Cooperation Organization - Wikipedia,
https://en.wikipedia.org/wiki/World_Artificial_Intelligence_Cooperation_Organization
41. AI国際機関の設立調印 中国など29カ国, <https://www.47news.jp/14636113.html>
42. Kimi K3とは？性能や料金、使い方やKimi K2との違いを徹底解説 | AI総合研究所,
<https://www.ai-souken.com/article/what-is-kimi-k3>